



「新型コロナウイルス禍で行き場を失った原木を、何とか有効活用できないか」。鹿角市十和田大湯の林業者「西村林業」は昨年、製材工場の稼働停止などで木材販売が打撃を受ける中、余剰在庫となった丸太を加工して新たに薪の通信販売を始めた。「新しい日常を豊かな暮らしに」。時代に即したコンセプトを掲げ、受注は今や1000件超まで伸びるなど好調だ。

昨年、製材工場がコロナ禍での木材需要の落ち込みなどで稼働停止や減産操業に追い込まれ、林業者が森林から切り出した原木は行き場を失った。同社では昨年春から約5カ月間、主要事業の木材販売の売り上げがゼロだった。

木は伐採期に合わせて切り出すため、旬を過ぎると規格に合わず製品として搬出することができない。そのまま置

西村林業

(鹿角市)

コロナ禍で、薪の通信販売を始めた西村社長(鹿角市十和田大湯)

コロナ禍で木材販売苦境 薪の通販始め、好調



循環型社会へ有効活用

「黙っている赤字になつていく。何か方法はないか」。西村公一社長(47)は、製品売すことにした。薪は「購入しやすく火がつかよう、乾燥した状態が原則だ」。含水率を引き下げ、高品質で提供を掲げた。雨を防ぎ、太陽光を通しやすくする

ため、昨年6月、同社所有地に乾燥、保管用のビニールハウス(約300平方メートル)を設け、ネットを張って風通しをよくし、防湿シートを敷いて地面から上がってくる湿気も防ぐように工夫した。

11月の販売開始に合わせ、通信販売の専用サイトも立ち上げた。大切にしたいのはコンセプト。「自宅での時間が増え、物の価値観が変わる中で、新しい日常を豊かに過ごしてほしい」。火を囲んだ食事、会話、料

薪の販売

キャンプ用薪 / 薪ストーブ用

木材の販売

木工品(コースター等) / 木材

循環型社会の実現や日常の豊かさなど、コンセプトを打ち出した専用サイト

「それぞれの立場でできることはある。見過ごされていた物が見つめ直されるきっかけになれば」と願っている。(随時掲載)

専用サイトの名称は「Rotation」。山の環境保全のため、木を伐採した場所を再び整備して苗を植え、手入れをするという取り組みを地道に続ける。「林業は山や森を守り育てる使命に担っている」と考えるだけに、持続可能な循環型社会の実現に向けた思いを表した。「それぞれの立場でできることはある。見過ごされていた物が見つめ直されるきっかけになれば」と願っている。

北鹿川柳
白内障世の中すべてスモーク